1969 年 8 月に映画「男はつらいよ」の第 1 作目が公開された

主演は渥美清、原作・監督は山田洋次で、第 49 作目となる「寅次郎ハイビスカスの花特別編」1997 年 11 月まで続いた。寅次郎の原型は渥美清の幼少時代の体験談をもとに山田洋次が作り上げたといわれている。渥美清（1928-1996）は浅草のストリップ劇場の前座の役者からスタートしたが、肺結核を患い 26 歳から 2 年間結核療養所で過ごした。右肺切除術を施行され奇跡的に生還した。

「男はつらいよ」に描かれているテーマは、家族の人間関係であり、寅さんの熱烈な片思いである。全作品を通して寅さんはプラトニックラブということになっている。

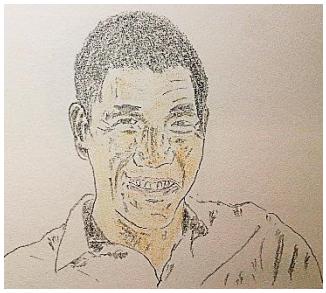
妹さくらこと賠償千恵子

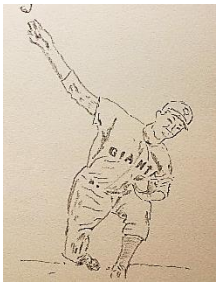
フーテンの寅こと「車寅次郎」

監督　山田洋次

私が大学 2 年生の時に第 1 作目が公開され、54 万 3 千人の観客動員数であったが、私もその数に入っていた。以後時々、映画館に足を運んだが、実際に観た数は 10 作品程度だった。渥美清が亡くなった年に全作品のビデオテープが発売されたので、購入して 30 本ほど観た。テキ屋稼業を生業としているので、渡世人的な言動が多いが、他人に対しては儒教的教えを諭すように語る場面が多い。

渥美清こと本名　田所康雄は、生涯私生活でも「渥美清」を演じて生きた俳優であり、1996 年国民栄誉賞を授与された。

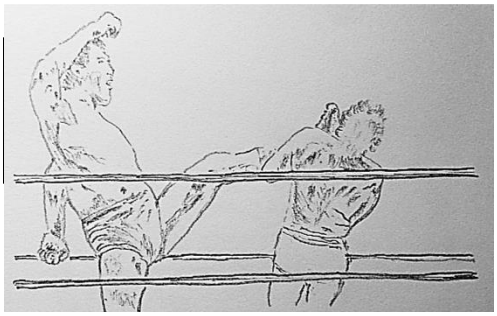




ジャイアント馬場（1938/1/23 – 1999/1/31）身長 209cm、体重 135kg

ジャイアント馬場さんは、三条市で生まれました。子どもの頃から身長が高く、運動神経がよく野球が大好きでした。家は八百屋で毎朝 12km の道のりをリヤカーを引っ張り家業の手伝いをしていました。三条実業高時代、大相撲からの誘いもありましたが、読売ジャイアンツにスカウトされ 16 歳の若さで入団しました。2 軍で最優秀投手に 2 度も選ばれ将来を嘱望されていましたが、宿舎の風呂場で脳貧血を起こし転倒した際に左肘の靭帯を切断し投手生命が絶たれました。男になって故郷に錦を飾りたいという思いで、力道山の道場に入門し、死ぬほどの激しい練習を行い、21 歳でプロレスの本場アメリカに渡りました。渡米後 2 ヶ月でリングに上がり、大人気ものになりました。その 2 年後、暴漢に襲われ力道山が突然亡くなり、日本のプロレスが存亡の危機を迎える局面で、馬場さんは帰国を決意しました。馬場さんの活躍で、再び日本のプロレス人気が高まり、プロ野球を凌ぐ視聴率を獲得するようになりました。妻となった元子さんとは二人が若い時からの付き合いでしたが、馬場さんが 33 歳、元子さんが 31 歳で結婚しました。生涯 2 人で仲睦ましく暮らしました。

2016 年 9 月 5 日、故郷である新潟県三条市議会の 9 月定例会に於いて『ジャイアント馬場（馬場正平）を三条市名誉市民に決定する議案』が、国定勇人市長より提出され、市議会本会議にて全会一致で承認されました。10 月 15 日に三条市役所にて名誉市民顕彰が執り行われました。



植村直己が眠る北米最高峰「デリナ」6190m

北極点犬ぞり単独到達に挑む植村直己

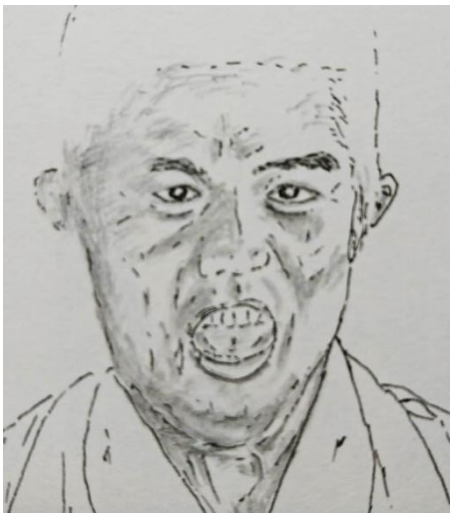
世界初五大陸最高峰登頂（エベレスト）

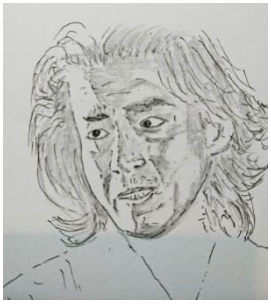
植村直己（1941-1984）

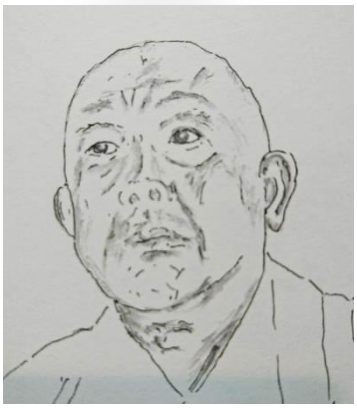
植村公子さん

明治大学山岳部入部当初は、よく転ぶことから「どんぐり」と呼ばれていた。抜群の体力と人一倍の努力家であり、富士山をホームグランドとして極寒登山の基礎を築きあげた。社交家ではなかったが、極北の地で暮らす住民と深く交流し犬ぞりの扱い方を学び、1979年世界初犬ぞりでの単独北極点到達に成功した。1984 年 2 月マッキンリー（現デリナ）冬季単独登頂に成功（世界初）したが、その後遭難した。1984 年 4 月国民栄誉賞授与。

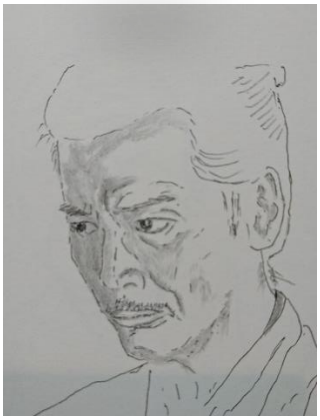
NHK 大河ドラマ「西郷どん」　　原作　林真里子　脚本　中園ミホ







西郷隆盛　（鈴木亮平）



明治維新の立役者・西郷隆盛を勇気と実行力で時代を切り開いた「愛に溢れたリーダー」として描いた。
270 年続いた徳川幕府が諸外国の圧力で開国を迫られる。列強国の植民地になりさがる危機的状況下で、天皇を頂点とする近代国家へと大きく転換したのが、まさに明治維新であった。

勝　海舟　（遠藤憲一）
岩倉　具視（笑福亭鶴瓶）

坂本　龍馬　（小栗旬）
桂　小五郎　（玉山鉄二）

西郷隆盛は、西南の役で新政府軍に敗れ自害した。彼がめざした新しい日本は、民が飢えることなく、権力に搾取されない、平等な世の中であったように思う。世界が帝国主義、植民地主義の流れの中にあって、彼が理想とする社会の実現には長い時間がかかったとおもうが、何時の日か「せごどん」が夢見た日本に成ることを願わずにはいられない。